

# 第3回 尼崎市総合計画審議会 総会 議事録

日時	令和2年8月11日(火) 18:30~
開催手法	小田南生涯学習プラザ ホール
出席委員	青田委員、稲垣委員、梅谷委員、加藤委員、川中委員、瀧川委員、久委員、梶岡委員、川島委員、島田委員、松原委員、和田委員、安田委員、丸岡委員、楠村委員、徳田委員、山崎委員、綿瀬委員、原田委員、尾藤委員
欠席委員	佐藤委員、堂園委員
事務局	吹野副市長、塚本総合政策局長、中川政策部長、橋本都市政策課長、都市政策課職員

## 1. 開会

### ●新委員の紹介

(会長)

総合計画審議会の現任期2年間のミッションは2つあり、1つ目は、本審議会が総合計画の進捗管理をどのように行うのかを明確にすること、2つ目は、次期総合計画策定に向けて、現総合計画の点検を行うことです。

1つ目の、本審議会による総合計画の進捗管理については、昨年4月に開催した前回の総会で皆様にご確認いただいておりますので、本日は、2つ目の現総合計画の点検を中心に意見交換させていただければと思います。

この点検のプロセスについては、専門部会において議論を重ね、私もメンバーとして、市とともに検討を続けてきましたが、専門部会としての検討を終え、本日、この総会で皆様にご確認いただくことになったということです。

後ほど、これまでの専門部会での議論の経過について部会長からご報告をいただき、専門部会で取りまとめた現総合計画の点検結果について、意見交換をしてみたいと思います。

### ●資料の確認

### ●議事録署名委員の指名

## 2. 第5次尼崎市総合計画の点検について

(会長)

それでは、議題「2 第5次尼崎市総合計画の点検について」に移りたいと思います。

この件については、先ほど申し上げた通り、専門部会に検討をお願いしておりますので、部会長からご報告をお願いいたします。

(部会長)

それでは、私から概略を説明させていただき、後ほど事務局より詳細を説明していただくと思います。

現総合計画の点検については、市のクレジットと、審議会のクレジットと分けて2部構成となっているのが一つのポイントだと思っております。事務局と手探りで考えてまいりましたが、総合計画のすべてを私たちだけで点検するというのは難しく、市役所で自己点検していただき、その点検が妥当かどうかという視点でこの審議会において評価する方が効率的ではないかと考え2部構成にさせていただいております。1部構成で、はじめに市の評価があってその評価に対して妥当かを審議会で評価するほうがわかりやすいかと思いましたが、市と審議会の考え方を分けたほうが市民の方にとってわかりやすいのではないかと考えております。

また、ここ数か月のコロナ禍での社会変動については任期中のことではありますが、次期任期に持ち越して、しっかりと議論していただいた方が良いかと思っております。

(事務局)

〈資料第1号、第1号-2、第1号-3について説明〉

(委員)

現状認識から次期計画に向けての感想になりますが、現在コロナ禍によりデジタルトランスフォーメーション(DX)がクローズアップされており、これから行政でもかかせない取組になると思います。デジタルの力を借りて業務の効率化を進めるとともに、データを基に最適な施策をつくるということが市民にとってのサービスにつながると思います。

(委員)

総合計画については課題もたくさんあるので市民・職員・審議会が三位一体となっていくことが大事だと思います。例えば、職員数を増やせないなかで課題に対応するには、負担感も増えてくると思います。ITを活用し、簡単に統計がとれるところは取って、そこを乗り越えて、人間の力でどうすればいいか考えていかなければなりません。コロナ禍で大変ではありますが、是非尼崎市に頑張ってもらいたいと思っております。これからもっと社会状況も変わっていくので大変かと思いますが、協力していきたいと思っております。

(委員)

施策間連携サミットの重要性を感じております。頻度を上げ、連携を強化していただきたいと思っております。

また、コロナ禍による、働き方改革や企業の在り方(接触・非接触の部分の活動や営業)について次期の計画に必ず入れていただきたいのと、この計画の職員認知度を上げていただきたいと思っております。

(委員)

資料第1号-2「次期総合計画策定に向けた第5次尼崎市総合計画の点検」(以下、「市点検」という。)、資料第1号-3「次期総合計画策定に向けた第5次尼崎市総合計画の点検-市の点検結果を踏まえて-(案)」(以下「審議会点検」という。)の両方をすり合わせて見てみると、市点検では市民は、「治安やマナー」、「学校教育」、「子育て」などをまちの課題と感じており、

市も力を入れてきたということです。

しかしながら、審議会点検では、市民等のライフスタイルや価値観は多様化し、市民ニーズや地域の課題も複雑かつ多様化しているとあります。市としては「選択と集中」をして施策数もある程度限定しなければならないと思いますが、一方で、市民のニーズも多様化しており、それをどのようにすり合わせしていくのが、これからの課題になると思います。

尼崎版のSDGsは市長も力をいれていると思いますが、SDGsが使われだした数年前までは、途上国に対する言葉ではないのかと思われていましたが、現在はグローバルスタンダードでやっていこうと認識も変わってきているなか、コロナ禍で社会経済の状況も後退するとますますSDGsの重要性も高まってくるのではないかと思います。SDGsは色んな分野にわたっていますが、点検にあるように市の財政力が弱いなか、市民ニーズが多様化している状況で「選択と集中」で取り組まなければならないという課題があります。特に専門部会でも指摘されていた、これから10年後の「尼崎らしさ」とはどういうことなのかを考えていく必要があります。

最後に総合計画は、“あったらいいな”と夢を語るのが趣旨ではありますが、尼崎が抱える大きな問題は「防災」だと思います。東京の江戸川区では水害ハザードマップにおいて、ほとんどの地域が浸水すると広域避難を呼びかけています。尼崎市のハザードマップを見ても危険な場所が多いので、夢を語るだけではなく、どのようにリスクを減らしていくのかという視点も必要です。総合計画も段々と様変わりしてきて、昔は右肩上がりの経済状況でしたが、今はコロナによる問題だけではなく、自然災害も多い状況で総合計画の性質が“あったらいいな”だけではないむしろリスク管理というような視点も出していかなければならないと思います。

(委員)

今まで尼崎の強みであった産業構造が大きく変わろうとしており、あわせてコロナ禍で変わらざるを得ないという部分がみえてきたのかなと思います。過去とこれからをどのように反映していくのか難しい課題だと思います。働き方が変化しているなかで尼崎の強みである利便性が今後も強みとなっていくのか、逆にネガティブな方向になっていくのかは大きな課題だと思います。

一方で、市内の人口は2018年、2019年と増加に向かったということですが、中身の部分を課題として挙げられており、ほかの施策も含めてプロセスについても施策としての内容と結果が伴っていたのか、検証して頂きたいと思います。結果良ければすべてよしではない部分もあるかと思います。

市の職員の総合計画の認知度が低かったのは残念でしたので、もっと工夫していただければと思います。

(委員)

市役所の職員でも総合計画がわからない人もいる中で、市民はもっとわからないと思います。私は総合計画の市民懇話会にも参加していたので、市の状況もわかるし、大変さもわかりますし、進捗管理を行っているのは尼崎市くらいだと思います。伊丹市総合計画は、尼崎のように進捗管理まではやってないと聞きました。尼崎が精力的にやっているのもわかりませんが、それだけの計画をどのように市民に伝えるのが課題だと思います。

例えば、尼崎市のスローガン「ひと咲き まち咲き あまがさき」は素晴らしいですが、市民はそのスローガンしか分らないと思います。それを基本のコンセプトとして市民と一緒に考えてはどうでしょうか。みんなのサマーセミナーや尼崎大学で、市民と市役所職員の有機的なつながりもできていて、素晴らしいことだと思います。尼崎は素晴らしいということ伝えていくにはどうすべきかが今後の課題だと思います。

(委員)

総合計画のことを、市民にもっと知って頂きたいと思っています。

子育て支援や教育の活動をしてきましたが、東京など関西を知らない人で神戸や大阪の会社への転勤で尼崎市に引っ越して来られた方々に、なぜ尼崎に住もうと思ったのか質問すると、会社から「尼崎あたりで家を探して下さい」と言われたという方が非常に多かったです。すごいチャンスだと思います。

私の活動も、地域や子育て支援や教育などで“こんなことあったらいいな”というところからスタートします。市民のみなさんに、自分が暮らす市が何を思って未来のことを考えているのかを知ってほしいと思います。そうすると“こんなことあったらいいな”の続きを考えるチャンスになるのではないかと思います。2019年度のアンケートでは対象者3000人を対象にして900人程度の回答しかなくて非常に残念に思いましたが、自分の暮らしているまちがどうなっていくんだろうと不安に感じているこのコロナ禍であれば多くの回答を頂けるのではないかと思います。

また、尼崎市のホームページで市の取組等について知ることができますが、一つの項目に対して情報量が多いので、こまめに少しずつ情報を出していただくと見やすいのではないかと思います。

(委員)

総合計画について、市の職員の認知度が低いのが残念ですし、そうすると市民の方はもっと知らないだろうと思います。

公害都市であった尼崎市が環境モデル都市をとれたことは非常に素晴らしいことですし、今後、環境未来都市を目指せる市ではないかとも思います。

市内の小学校の給食室は、食中毒の発生リスクを低減させるため、ウェット方式からドライ方式に変更していますが、知っている市民はあまりいらっしゃいません。このような市の地道な取り組みなどを市民の方々に知っていただくのも重要なことだと思います。

気になるのは、尼崎の強みである交通の利便性がこのコロナ禍で生活が変わるなかで、どのように変化していくのかということです。尼崎市は交通の利便性も非常に良く、医療施設が充実し、本当に住みやすい街大賞に「JR尼崎」が選ばれていますが、阪急沿線を整備したらもっと住みやすいまちになると思います。

(委員)

市点検にある「時代認識」の7つの視点が大きな観点かと思いますが、防災・コロナを8つ目の視点として考えてみてもいいのではないかと思います。

防災に関して、最近で言えば、尼崎は台風21号の影響で1週間近くの停電がありました。コロナに関してはICT、テレワークが進む中で情報化という点で防災とも絡めていけるの

ではないかと思えます。

尼崎の人口増加は北部が引っ張ってっていますが、南部も防災の強化など課題もたくさんあるかと思えます。平成 28 年の尼崎市制 100 周年のタイミングで、「自治のまちづくり」条例を制定し、今回の総合計画でもキーワードのように「自治のまちづくり」を多用しています。しかしながら、「自治」という言葉だけでは、「住民自治」、「団体自治」があるなかで、市民の方々にとってわかりにくいのではないかと思えます。

(委員)

コロナ禍によって世の中が変化しており、例えば「巣ごもり」という言葉があります。スマホなどですべて完結し、家にいながら買い物して、仕事ではテレワークやウェブ会議を活用し、学校に行かなくても教育が受けられる、移動しない、動かないという時代が未来の姿で、家の中に閉じこもってしまう生活が急速に進んでいくと思えます。

今年度中の尼崎市の課題としていました、ICT についても尼崎もようやく学校現場に一人一台タブレットを導入するとのことですが、これから高齢者や子どもに対しても ICT の活用能力育成を積極的に進めて頂きたいと思えます。例えば、現在コンビニで住民票が取得できますが、これからはスマホで住民票を取得できる時代がくるかもしれません。そうすると市役所の労働力などは AI が担うなど、ICT をどんどん進めていただきたいと思えます。

現に、国連が 100 年前のブラックマンデー以来の景気後退になると発表されていて暗黒時代がくると思われています。財政面でもかなり厳しい状況ではありますが、尼崎市はかなり頑張っていたと、2017 年財政収支均衡で目標達成されたということですが、限りある財源なので、ギアを上げ行財政改革を進めて頂きたいです。

小さな政府という言葉がありますが、市役所もコンパクトになっていく必要があります。

例えば、住民票取得のために市役所窓口に行かなくても、今後は家にいて届くようになっていく時代になると思えますし、そのようなものが多々あるなかで、小さな政府の市役所をどんどん進めていただきたいと思えます。

(委員)

今後を見据えた視点での 2040 年問題を、各項目で取り上げられていますが、2040 年は高齢者の人口がピークを迎えることもあり、これに対してどういう対策をとるかが重要であるというように思えます。市点検 10 ページにも記載されている総務省主催の自治体戦略 2040 構想研究会でも、2040 年問題を乗り切るためには、公共サービスのシェアや行政のフルセット主義からの脱却が必要などと言われていますが、これは市民の目線が大変欠けており、ここに問題点があると思っています。

もう一点、ファミリー世帯の転入促進を、尼崎市の最重要課題として取り組まれています。ファミリー世帯の転出超過がいまだに続いているということについて、市点検での現状認識については、「住宅事情や治安、環境、子育て支援、学校教育などに問題があり、市の取組の方向性は妥当だったけど、より効果的な対応が必要だ」と記載されています。

一方で、ファミリー世帯の意識調査に基づく現状認識では、住居に関する課題を転出の理由に挙げられている人が多く、人口動態と住宅供給についても高い相関関係があるとしています。それを受けて、審議会点検では、「人口動態と住宅供給の相関関係を意識したまちづくりを進めていく点については妥当な評価だ」とされています。

私は、ファミリー世帯が転出されているのは、住居の問題もあるかもしれませんが、子育ての問題など総合的ななかで転出が進んでいると思いますので、住宅供給との関係だけを審議会意見とすることに違和感があります。

(委員)

進捗管理を行うなど作りっぱなしにしない意識は高まってきましたが、認知度は低いです。私も市民懇話会に参加して総合計画に携わりました。最初は難しいと感じましたが、今では愛着がわいています。愛着がわくということは大事なことです。もっと市民に計画に関わる機会を作って市の取組を口コミしてもらうことも大切だと思いました。

「SDGs（持続可能な開発目標）」は2030年までの目標になっており、これを達成することで地球規模で持続可能な社会をつくっていき、誰一人として取り残さない社会をつくっていきという想いの世界的な開発目標となっています。日本の中でも各自治体がバラバラに計画をつくっていますがSDGsのような世界的な目標は他にないと思います。次期の計画はSDGsの目標年限である2030年を目標とした総合計画にして、そこからバックキャストして、市民・事業者・行政が何をしていくのか、どういことを盛り込んでいくのか、誰もが共有できる普遍的なものであっても、知らなかったら意味がないので少しでも簡単なところから関わる機会を増やしていただければと思います。

(委員)

まちづくりに関する意識調査について、平成22年度の回収率（47.4%）から令和元年の回収率（32.4%）は大きく下がっており、市民の方のまちづくりに関する興味が低くなっているのを感じます。「中学校給食」などピンポイントで興味のある人はいるでしょうが、広い分野になると興味をもってもらえないので、市民の方にどうしたら興味をもってもらえるかが課題だと思いました。

「防災」についても、去年の台風被害などもありましたので、防災についてもしっかりと記載するべきかと思いました。

もう一点、地域活動についてですが、これから外国人労働者も増えていくと思いますが地域の方々が外国の方たちをどのように受け入れていくのが課題になってくると思いますので、市役所が間に入るなどの視点も必要かなと思いました。また、若い人のボランティア参加が少ないのも課題ですが、外国の方を雇用している企業が連携して地域のボランティアに外国の方々も参加するなどできればいいのかなと思います。

(委員)

「防災」が大事というのは不安を煽るということではなくて、社会の課題を乗り越えるということなのでまさしくSDGsそのものかと思います。全国的に災害に強いまちというのは、まちづくりがしっかりしています。キャッチフレーズの「ひと咲き まち咲き あまがさき」のとおり防災もしっかりと進めていけたらと思います。

(委員)

長い間、総合計画に携わっていますが、総合計画の流れに大きなインパクトを感じています。まず横軸を入れようという考え方を具現化して、施策間連携サミットを開催したところ

だと思えます。大きな着眼点として市民を中心として計画をたてるというのが大きな軸になるという方向性になっていると思えます。

(委員)

今後、情報化・デジタル化が進んでいく中で、情報弱者と呼ばれる方々（聴覚障害、視覚障害の方々）への情報提供の配慮でありますとか、福祉においては“地域共生社会”が推進されています。したがってだれもが参加、活躍できる社会という視点も今後益々必要になっていくのではないかと改めて感じています。

(委員)

基礎自治体の責務とは何であるのか、というのを次の基本計画を考える際にしっかり向き合わなければならないというご指摘を何人かの委員からいただいたかと思えます。市民ニーズが多様化する中で、行政の選択が求められてきていることをどうするのかという意見もありましたが、市場の論理だけでなく、人権保障の論理で考えていくのかというところが問われていると思えますので、今後に向けてこの点を意識したいと思っています。

また、これからの審議会では多様な人で構成されることを問われていると思っており、特にこれからの社会の生き方を考えると定住外国人の方々や女性の方々の意見をどう反映していくのかということも次の計画では考えなければいけないと思えます。

(委員)

ファミリー世帯の転出の超過という点は次の計画でも考えないといけないと思えます。その中で保育や子育ても大事ですが、今年度、施策間連携サミットが開かれ、その中でも都市計画とともに考えていかないといけないと思えます。待機児童が多い地域というのは、その地域にマンションが建っても保育所が足りないという状況になりますので、そう考えると多面的に色々な縦割り行政と言われてきたことから変わってきて、施策間の連携にあたっていくということをやより次の計画からしていかないといけない。それとともに市民に総合計画をいかに伝えていくかを考えたときに小学生の教材としてつくることは可能なのか、それぐらいかみ砕いた内容であれば外国人の方々にもわかりやすく伝わりやすいということもありますので、次の計画にはそういうことも視野に入れながら考えていくと、市民と共に総合計画がよりクリアになっていくのかと思えます。

(部会長)

委員からの「尼崎が良い方向に向かっているが果たしてそれは施策の結果なのか。しっかり評価しないといけない。」という意見がありました。私も同意見であります。住宅の供給が子育て層を呼び込むことに影響しているという話がありましたけれど、最近ではJR塚口駅前の開発によってかなりイメージが変わり、子育て層も多く住むようになりました。もう少し大きな視点でみると、その土地にはもともと工場がありその跡地に住宅が建ったとすると、施策というよりも社会の穴の中（脱工業化）でおこっているある意味必然であり、市が仕掛けたわけではないことです。

しかし、それは重要なことで私たちはその変化の中で暮らしているし、都市は動いているということを経験したときにもう少し大きな視点というのもこれから重要ではないかと思いま

す。その流れで隣の西宮を見ると、西宮はホワイトカラーのまちであり、通勤というスタイルで成り立ってきました。50、60年前の尼崎市はどうだったのかというとブルーカラーの方々が工場で働き、近くに住み、工場帰りに色々飲み食いをして、商店街も潤ったまちです。

しかし社会が変化し、私たちの暮らしが変わることによってまちの風景も変わってきています。そう考えると、これから先私たちはどういう働き方をするのだろうか、どういう暮らしをするのだろうか、それは尼崎でなければならないのかということです。私たちの暮らし方そのものを見つめなおすことと、大きな社会の変化の中で尼崎のまちの未来は何が見えてくるのだろうかということを次回議論していきたいと思います。まちというのは暮らしの舞台なので、私たちの暮らしがどう変わっていくのかということと、それを舞台としてどう受け止めていくのかということをごこれから考えていきたいと思っています。

### 3. 閉会

(会長)

今回の審議会で次期総合計画の手掛かりとなるキーワードもたくさん頂きました。ICT・コロナ・防災の問題をどう伝えていくのかということが今後の課題であります。こうしたことも含めて、事務局と修正点をしっかり議論したうえで最終稿としてまとめていければと思っています。これで本日の議論を終了させていただきたいと思います。

(事務局)

ご審議ありがとうございました。

点検結果につきましては、本日いただいたご意見を成案化し、次期総合計画策定していく上で次の審議会に申し送ることになりますので、よろしくお願いいたします。

現総合計画審議会につきましては、今月16日が任期末となっております。任期満了を迎えるにあたりまして、副市長から一言お礼を申し上げます。

(副市長)

総合計画審議会委員の任期満了にあたりまして、一言御礼申し上げます。

皆様、2年間の長期にわたり、本市の総合計画の推進にご尽力いただきまして、本当にありがとうございました。

平成30年6月の条例改正により、総合計画審議会が常設化され、初となるこの2年間の任期では、本市が課題としていた「総合計画の進捗管理の強化」に向けて、総合計画審議会としての関わり方を具体化していただきました。そして、非常にタイトなスケジュールのなか、現総合計画を点検し、次期総合計画策定に向けた貴重なご意見を取りまとめていただきました。

本市といたしましては、いただいた意見を全庁で共有し、それを踏まえたうえで、次期計画策定に向け、しっかりと議論をしてみたいと考えております。

次期の任期へ移る総合計画審議会へは、まちづくり構想を含めた総合計画の策定を諮問させていただくこととなります。

引き続き、委員の皆様には、より良いまちづくりに向けて、本市総合計画の推進にお力添えをいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

(会長)

以上をもちまして、尼崎市総合計画審議会 第3回総会を終了します。

以 上